

## [成果情報名] チャトゲコナジラミ寄生のないチャ苗の生産方法

[要約]薬剤による採穂園の防除と挿し穂の薬液浸漬処理等を組み合わせることで、チャ苗生産時のチャトゲコナジラミ寄生をゼロにすることができる。併せて、目合い 0.2×0.4mm の防虫ネットハウスで育苗し、育苗期の成虫飛来を防止することで、チャトゲコナジラミ寄生のないチャ苗の生産が可能である。

[キーワード]チャ、チャトゲコナジラミ、苗、防虫ネット、殺虫剤

[研究所名]奈良農総セ・茶振セ

[代表連絡先]電話 0742-81-0019

[区分]近畿中国四国農業・茶業

[分類]技術・参考

## [背景・ねらい]

近年、チャでは、消費者ニーズの多様化に対応するため新品種の導入が積極的に行われ、府県を越えた苗木の流通が盛んである。しかし、新たな侵入害虫チャトゲコナジラミの寄生苗木の移動による分布拡大が懸念され、苗木の流通に支障をきたしている。そこで、苗木の移動による分布拡大を防止するため、チャトゲコナジラミの寄生のない苗の生産方法を開発する。

## [成果の内容・特徴]

1. 薬剤による採穂園の防除、挿し穂の薬液浸漬処理、挿し木後の薬液土壌灌注を行い、育苗を防虫ネットハウス内で行うことで、チャトゲコナジラミの寄生のないチャ苗生産が可能である（図1）。
2. 採穂園のチャトゲコナジラミの薬剤防除では、トルフェンピラドおよびフェンプロキシメート・ブプロフェジンなどを用い、卵および若齢幼虫期の防除を行うと、防除率は 73～100%であり、挿し穂での密度をかなり低減できる（表1）。
3. 上記2に加え、挿し穂をフェンプロパトリンなどの薬液で浸漬処理することにより、チャトゲコナジラミの寄生密度をゼロにすることができる。さらに、挿し木後のクロチアニジン 4000 倍希釈液の苗床土壌灌注を加えると本種発生リスクは大きく低下する（図1）。
4. 無灌水挿し木法による育苗では、フィルム密閉中は成虫の飛来を防止できるが、フィルム除去後に産卵されることがある。目合い 0.2mm×0.4mm の防虫ネットハウス内で育苗を行うと、産卵防止効果が認められる（表2）。また、肥培管理の作業性にも優れる。

## [成果の活用面・留意点]

1. 挿し穂の薬液浸漬処理では、薬液の付着むらが生じないように工夫を行う必要がある。なお、薬液による挿し穂の浸漬処理や苗床の土壌灌注処理などの単独処理だけでは危険である。
2. チャでは、2011年12月現在、挿し穂の薬液浸漬処理や苗床の薬液土壌灌注処理で登録がある農薬はない。
3. チャトゲコナジラミは2011年に記載された新種であり、それまでミカントゲコナジラミ（チャ系統）と呼ばれていた。

[具体的データ]

表1 薬剤処理によるチャトゲコナジラムの防除効果(穂木)

薬剤名	希釈倍率	薬剤処理		防除率
		回数	時期	
トルフェンピラド	1000	2	卵期	91.2
フェンピロキシメート・プロフェジン	1000		若齢幼虫期	
トルフェンピラド	1000	1	卵期	72.7
トルフェンピラド	1000	1	若齢幼虫期	81.9
フェンピロキシメート・プロフェジン	1000		84.2	
トルフェンピラド	1000	1*	卵期	100
フェンピロキシメート・プロフェジン	1000		97	

表2 防虫ネットによる成虫飛来防止効果(苗床)

チャトゲコナジラム寄生数			
処理方法	葉数	卵(個)	1齢幼虫(頭)
防虫ネット	102	0	0
露地	91	19	4

注) 越冬世代成虫発生期間:4/30~6/17、調査:6/18  
防虫ネット被覆:4/5~6/18 各区3本3反復

注) 時期:チャトゲコナジラム生育ステージ  
採穂園、圃場:4000/10a 散布 \*:10秒間薬液浸漬処理

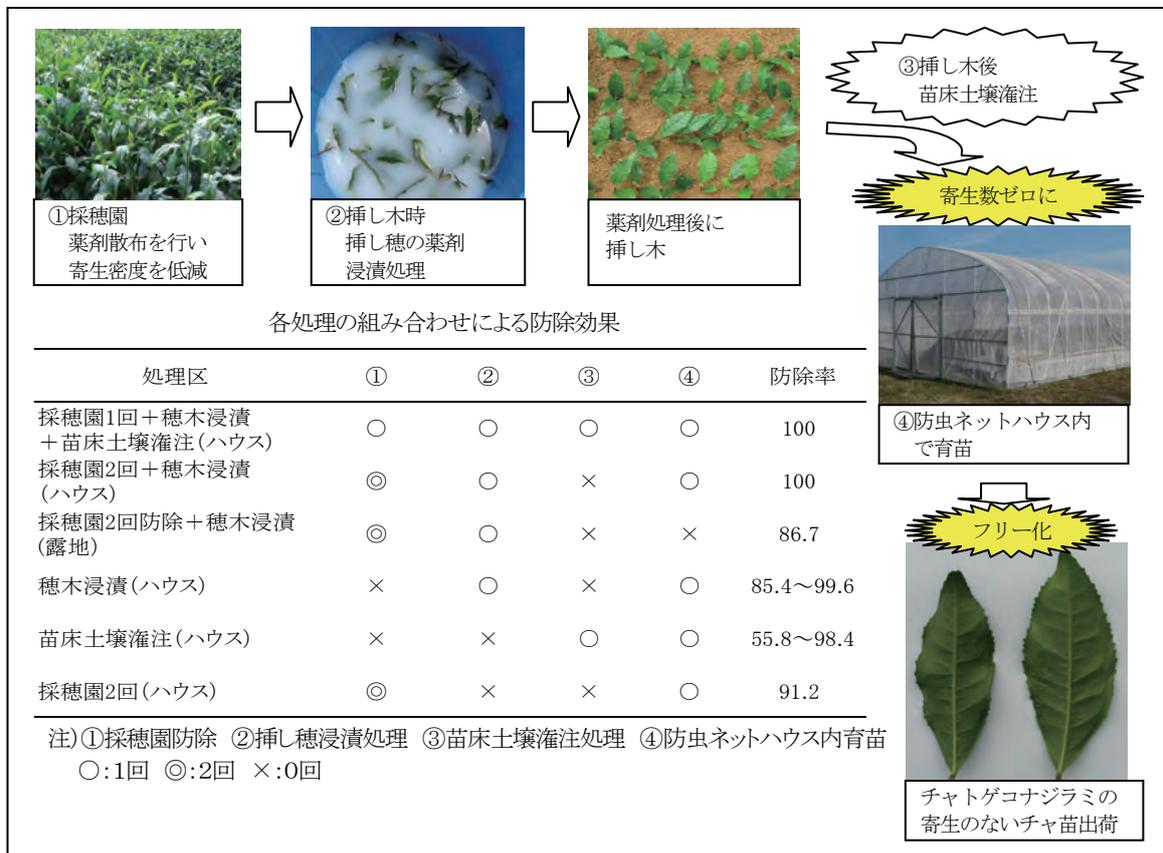


図1 チャトゲコナジラムの寄生のないチャ苗生産手順と各処理の組み合わせによる防除効果

(屋嘉比昌彦)

[その他]

研究課題名:チャの新害虫ミカントゲコナジラムの発生密度に対応した戦略的防除技術体系の確立

予算区分: 実用技術

研究期間: 2009~2011 年度

研究担当者: 屋嘉比昌彦、宮本大輔、前川寛之